



間違えたあとに、その場所の温かさがわかる。

PHOENIX愛知が考える「心理的安全性」と「成長」のカルチャー



「温かい場所」とは、
決して「叱られない場所」
ではない。

言動を間違えれば、指摘される。

「詰められるのはつらい」と感じる人もいる。

それでも、ここが温かい場所である理由がある。

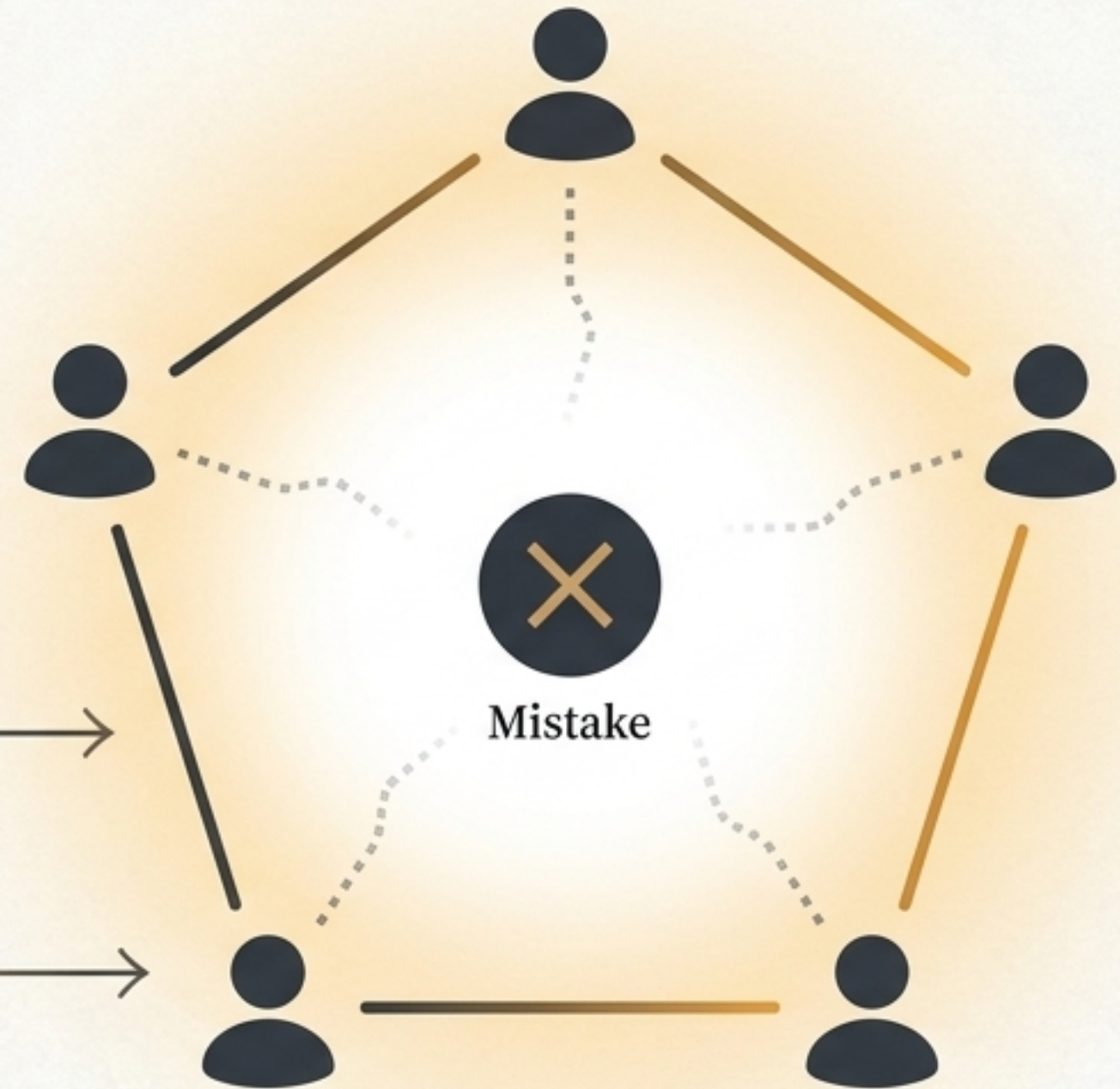
The Shadow Distancing Model

表面上の穏やかさが
持つ冷酷さ

一度の失言で評価が固まる

陰で静かに距離を置かれる

何も言われないうち、挽回する機会さえ失う

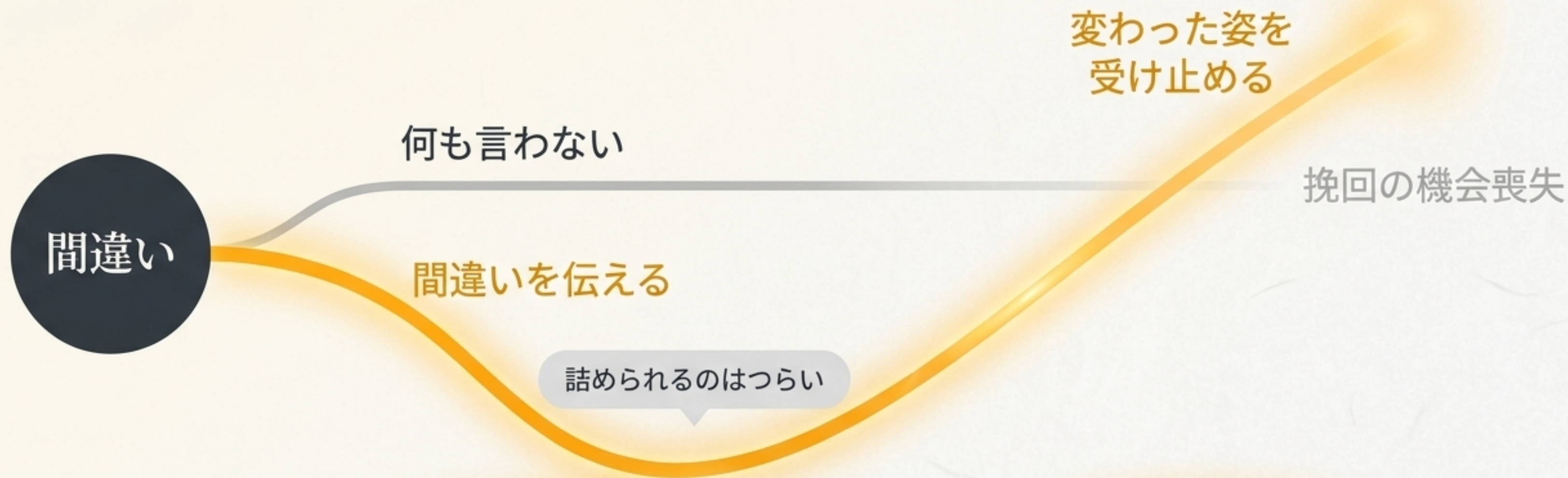


間違えても、変わればいい。

過去の失敗で、その人の未来まで決めない。

PHOENIXで大切にしたいのは、間違いを伝え、変わった姿をまっすぐに受け止めること。

The Lifeline of Forgiveness



間違いを指摘するのは、
見捨てないため。

変化を認めるのは、
一緒に歩き続けるため。

An illustration featuring a dark grey rectangular block on the left with the text '失敗した日' (Day of Failure) pinned to it. A chain of dark grey links extends from the block towards the right. In the middle, a bright orange and yellow lightning bolt strikes the chain, breaking it into two parts. To the right of the broken chain is a glowing orange circle containing a white person icon. The background is a light beige with soft, wavy lines and small orange and yellow sparkles.

失敗した日

人を、失敗した日のまま閉じ込めない。

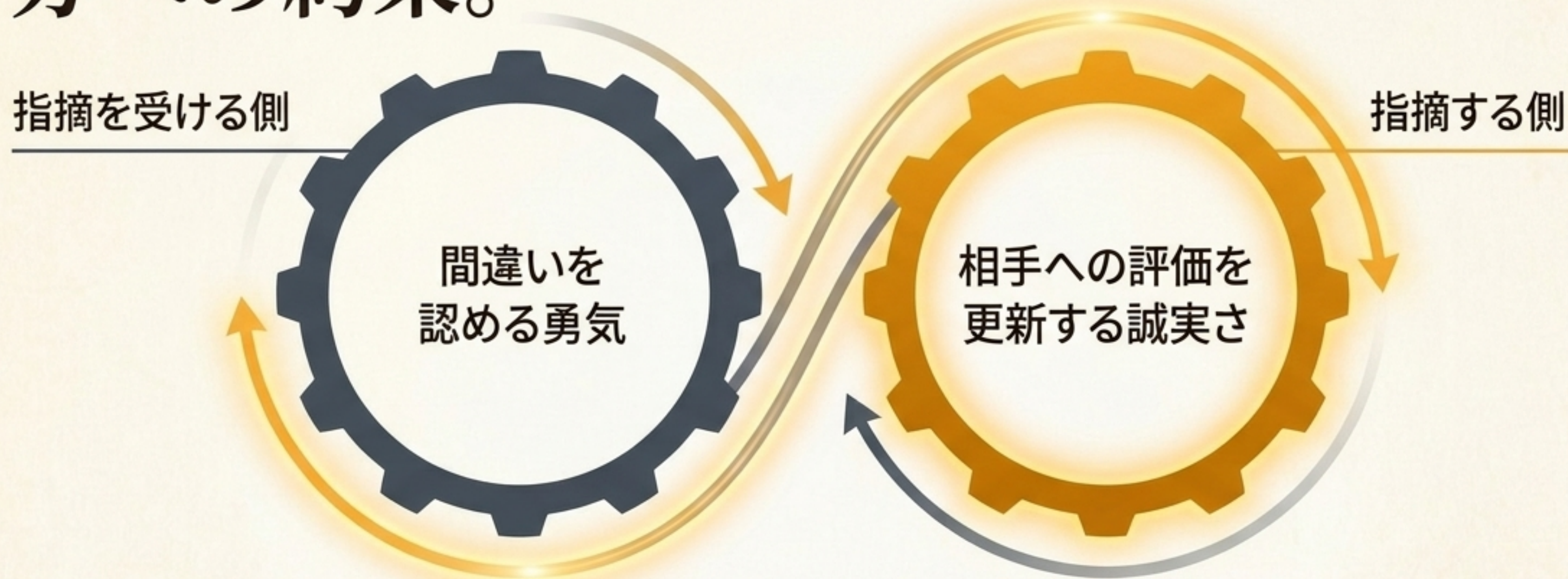
「あのとき、あんなことを言っただけに」

自分を不快にさせた発言や、迷惑をかけられた記憶。

私たちは、その評価を握りしめたまま、相手を見てしまうことがある。

変わった人を、過去に引き戻してはいけない。

「変わればOK」は、 自分への約束。



どちらか一方だけが頑張る関係では、この温かさは育たない。

評価の更新モデル

過去の評価



新しい目

相手は変わり始めているのに、
こちらの見方だけが変わっていない。
そんな悲劇を防ぐために。

「変わればOK」とは、相手に変化を
求めるだけでなく、変わった相手を、
自分も新しい目で見るという約束なのだ。

表面上の穏やかさ

PHOENIXの温かさ

間違いが
起きた時

陰で静かに距離を置く

見捨てないために、
まっすぐ伝える

人への評価

一度の失言で
評価が固定される

変化に合わせて、
常に評価を更新する

ネガティブな
本音

波風を立てないよう隠す

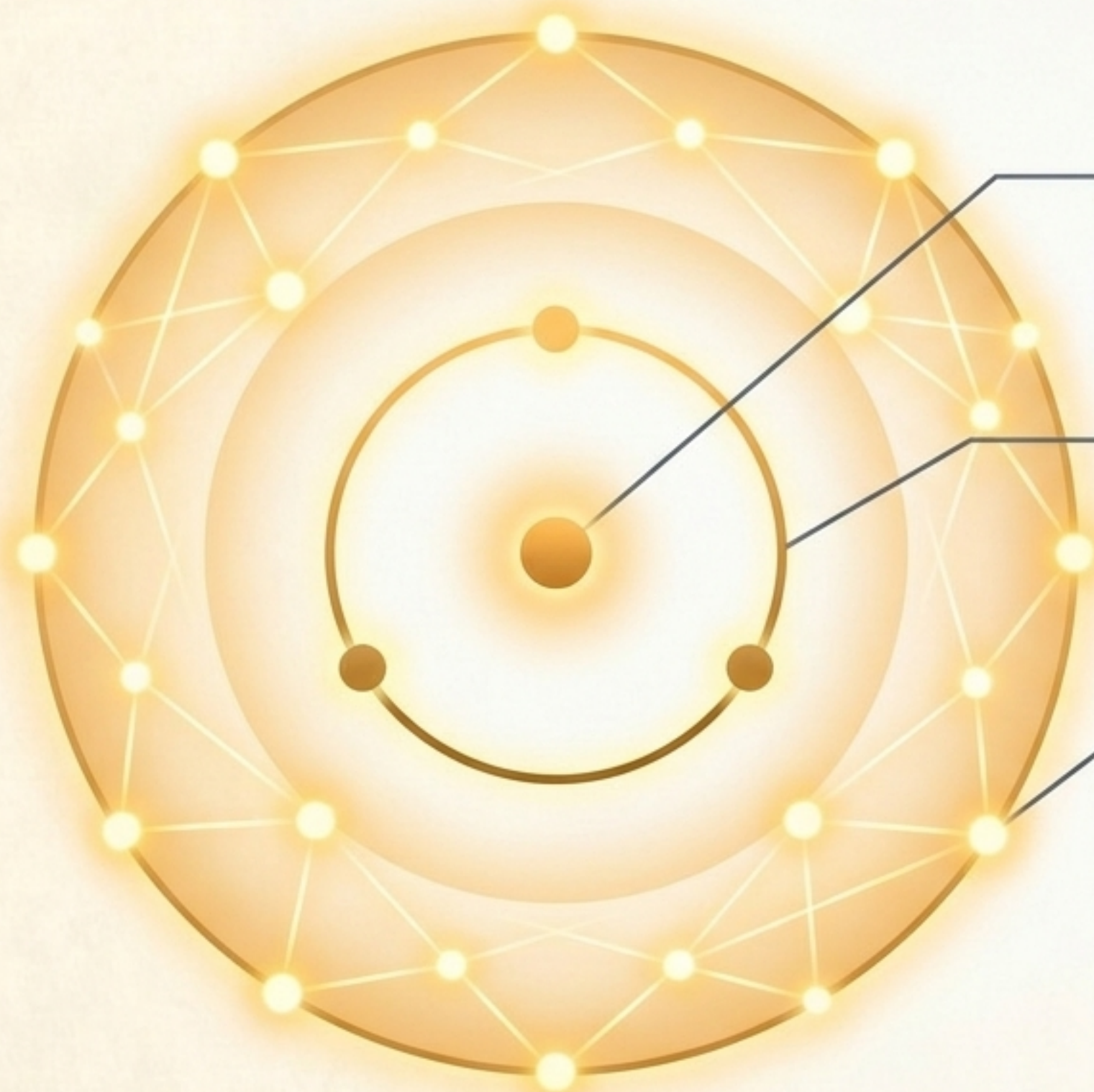
「つらい」という本音も差し出せる

最終的な目的

表面的な平穏を保つこと

一緒に未来を歩き続けること

温かさは一人の勇気に頼らない。皆で育てるもの。



一人が「つらい」という本音を差し出す

別の誰かがそれを受け止め、自分の本音を出す

互いに変わり続ける循環が生まれる

認めたあとにも、一緒に歩く未来がある。
だからこそ、人は自分の未熟さに向き合える。

失敗した日のその人より、
今日、変わろうとしているその人を見る。

人の未来を諦めない、熱い温かさ。

PHOENIX愛知